

農業委員会との意見交換会 会議録

日 時：令和 7 年 1 月 28 日（火）13：30～15：10

場 所：役場 3 階 全員協議会室

出席者：

・農業委員会（7 名）

会長 蛭間 泰四郎（10 区）、会長職務代理 栗原 寛（5 区）、荻野 道子（7 区）、下山 克則（16 区）、金子一紀（9 区）、椎名 勝弘（11 区）新島 文幸（12 区）

・千代田町議会（10 名 ※橋本博議員欠席）

・執行部（2 名）農業委員会事務局長 大谷英希、農地係長 高橋史幸

・千代田町議会事務局（1 名）下山議会事務局長

1. 開 会

2. 挨拶 森議長、蛭間会長

3. 意見交換 座長：森議長

森議長：それでは、議長、座長を務めさせていただきます。本日は、大体 1 時間ぐらいということで、3 時ぐらいまでを予定しております。いろんな意見を活発におっしゃっていただければと思います。あと、質問等もあればお願いします。今この時点で何か質問とか意見とかお持ちの方いらっしゃいますか。

蛭間農業委員長：私のほうから、意見と言いますかね、よく先般、新橋という話がずっと続いていて、予算がついてよかったねというところで、非常に町としてはウェルカムというところでございます。しかしながら、農業者にとっては、農地が減っていくのではないかという疑心、不安、そういった中と、通行量が増える、農作業車、スピード遅いです。大型トレーラー、トラック、その他のトラックに農作業車が接触して重大なる事故にならないか、いわゆるそういう事案が、そういう新橋並びに延伸道路が開通すると発生する恐れがある。そういった中で、特に西部地区、舞木周辺の農地がかなり、土地改良が終わって数十年経ったような状況で、かなり道路並びに用水路、用排水路、痛んでいると。そういった中で、ミニ土地改良と言いますかね、その辺の、いわゆるこれは地権者の賛同を得られないとできないことなのですが、予算が問題でございます。近隣では野辺地区で土地改良、設立して工事が始まろうとしているのかな、始まったのかな。設立準備委員会、私も参加させていただいて、大きい金額の工事を計画されていると、そういった場面に出くわして、舞木地区にはかなり道路が傷んでいて、用排水路が傷んでいるというところもございまして、その辺を是非実行に向けてというところと、それだけの企画に対して難しいというご意見も何回か賜っていますので、その辺は 1 つ今回議員の皆様頭にに入れていただいて、今日、明日できないにしても、何かのチャンスにぜひ思ってくださいれば幸いかなと。大きいトラクター 2.4 というと、大体ロータリー幅が 2.6 近くあると道路ですれ違いできない。そうすると、乗用車が後ろにいるともう気になって気になってしょうがないと。そういうこともございまして、ぜひその辺を鑑みながら、検討していく 1 つにさせていただきたいということでございます。

まあ、こちらにいる農業委員のみんなもいろいろあろうと思いますので、よろしくお願いします。

森議長：ただ今の蛭間会長のご意見に対して、何か議員のほうでございしますか。今の蛭間会長のお話というのは、農業委員会の方は大体皆さん同じような考えですか。

蛭間農業委員長：多分そういうふうに思ってくれていると。新橋イコール道路、農地が減るのか。そうすると、いわゆる不安事案が増えるという。

森議長：例えば、議会にこういうふうにしてほしいとか、何か要望はありますか。

蛭間農業委員長：それは、また定例会で、皆さん揃ったところで、こういった事案があつて、私がそういう発言をしたいと。今日明日できないけど、皆様のご意見を賜りながら、再度、打ち上げる場面があれば是非、聞く耳を持っていて、やっと来たかと言えぐらいのあれになるかもしれませんが、ぜひそれは皆様のご意見を束ねて上申したいというところでございます。

森議長：わかりました。この件について何かありますか。

原口議員：私としましては、農業をやっているとして、昨年、令和5年ですね、カメムシが大量発生しまして、やはり農協に出荷して、検査で大体2等とか3等が大半を占めたっていうことが1つ気になっている点と、やはり最近の猛暑で米の終了が減っている。農協のカントリーの集積率というのを聞くと大体8割、一昨年比べて8割弱しか集まらない。特に板倉町だと2割、3割しか集まらないという話も伺っているのです。ということはやはり、大規模な農家の方はそれなりの収量があるかと思うのですが、小規模の農家の方がやはりそういう暑さによって収量が減る、そしてカメムシによって等級が下がるとなると、やはり売上金額が下がるので、機械の更新とかできない。すると、農家は続けられないという現状があるのかなと思っています。カメムシ対策に関しては、農協のほうでヘリコプターによる散布とかドローンによる散布が検討されていて、一反あたり3千円弱かかるというのは聞いています。そういうところの補助を農業委員会としてどう考えているのかというのが聞きたいところです。

蛭間農業委員長：議員のお考えのとおりです。2023年、舞木地内において、農業委員さんから、こういったカメムシ問題で、カメムシに吸われた、噛まれたという茶色に変色したお米をいただいて、私も動かなくてはいけない。それで、県の農政部、館林のほうへ出向きまして、技師にご相談し、当時のJAの課長と相談して、昨年、皆さんの賛同を得て、千代田支所を借りてカメムシ講習会を実施しております。常に一手先を読んでいかないと、後手に回っては農業が衰退してしまう。それで、板倉で集荷率が減少というのはおそらく、私の情報の中には、都市近郊型の農業をされている千葉県、一昨年、200ヘクタール近い農家の皆さんに、農家に研修に行った時に、やはりそういったところはほとんどJAに出さない。やはり設備投資がかなり大きいと。そういった場面でやはり農協に出していくと、いいところを取られてしまうと。いわゆる利幅が減ってしまうと。それで、おそらく埼玉の南のほう、またそういった農協では集荷率が、いわゆるパーセンテージがどんどん下がっている、将来的に農業が破産する状況になっていくのではないということも推測されているという。当該地区の邑楽館林農協に関しては、現状、出荷率は埼玉県内の農協に比べて非常に高い状況が続いていますが、おそらく推測するに、邑楽館林管内で主たる農業で食べていこうという農家の皆様、いわゆる数十ヘクタールあるいは100ヘク、200ヘクを目指す農家の企業体も出てくると思います。そういった中では、自社で開発したところで売っていくと。だから、おそらく10年すると農協の集荷率は相当ダウンしていくのだらうと思われれます。ですから余計カントリーの集荷率も当然減っていくのだらうと。ですから、JAの部長が私のところへ去年の秋に来た時に、おそらくカントリーの再編も遠からず10年以内にやってくるのではないかとという投げかけをしました。そのような現状です。

原口議員：カメムシ対策の防除に対する補助というのを、農業委員会としてそういうことを検討されているのかと、この暑さ、猛暑の中の米づくりに対してどういう方向性を農業委員会としてこうお持ちなのかというところを聞きたいです。

蛭間農業委員長：あくまでも農業委員会というのは予算を持っている委員会ではありませんので、あくまでもカメムシの講習会、未然に防ぐことを農業者みんなでやっていきたいと思いますという委員会なものですから、その辺で議員がおっしゃるところで、農協で、ある程度まとまれば3千円ですよ。ただ、邑楽館林管内で、いくら防除しても耕作放棄地にカメムシが隠れてしまって、ある程度防除が薄れてきたら、または出てきたらどうするのかというご意見もあったと思います。それを踏まえると、非常に難題です。0にならない、そういうことだと思います。ですから、農業委員会としては研修会の予算は持っているけど、おっしゃられる防除に対するどうこうというのは、当委員会としては持ってないというお答えになります。

森議長：暑さ対策は。

蛭間農業委員長：暑さ対策に関して、私も42度の圃場で作業していますと、やはりそれなりのことをやはりみんな農家はやっていますから、やはり早めに出て、暑い時間は避けるということと、常にその水分補給をやるしかないのかな。これ、CO2の問題を踏まえながら、これは世界レベルの問題ということと、やはりどうする、農林水産省がそういう事案に対して、例えばこういう補助をしますよという立案をしていただかないと、農業委員会は打ち上げをしますけども、それが即通るという状況の場面に至らないと思います。ですから、そのおっしゃられる、農業委員会がすべてを網羅している団体ではないということとを否めない。23年あまり農業委員をやっていますけども、それは23年自問自答している状況です。打破できない事案が23年の中でいっぱいありすぎて、お答えできないほどいっぱいあったということです。

栗原職務代理：今の案件に対して補足しますと、農業委員会ではまず、耕作放棄地の件に関して、大手が2件ほどあったのです。そのうちの1件についてはほぼ、代わりの方が見つかりまして、もう残るは1件だったのです。ですから、そういうことで、耕作放棄地におけるカメムシの住処というのは減っているであろうと思っております。それから2点目は、非常にこれは全体的に言えるのですが、畦の問題がありまして、畦の管理が非常にここ最近悪くなっています。それで、これは皆さん、農業をやられる方はお気付きかもしれませんが、手が回らないということです。体調を壊したとか、色々な要因があると思うのですが、その管理ができないとやはりそこで越冬するというのも事実でございます。ですから、農業委員会としては、借りた人、耕作している人に対して、その管理をできるだけやってほしいというアピールはしております。それから、水路の問題ですが、異常気象につきましては、用水路からの取水をこまめに行って、やはり水を冷たくしていくという、入れ替えをしないと、やはり水稻も暑さにまいてしまうのです。ですから、そういうことも踏まえて、農業委員会としては、皆さんの意見の中で色々出し合って、できることはやるようにしています。ただ、会長が言われたように、お金に関することについては、農業委員会は予算も持っていませんし、そういうことできないので、その辺はご理解いただきたいと思います。それから、防除についても、会長、率先してJAの方にアピールして、去年も説明会を開きまして、皆さんに集まっていたいて、今年のやり方についても一応提案をいただくような形に、議員も多分出席されているので聞いているかと思うのですが、そういう形で前に向かう防除の考え方というのはできるだけアピールするようにしております。

原口議員：ありがとうございます。私も農家をやっています、農協のそういう講習会とか出て、カメムシ問題、話題になっているのは重々承知しています。それで、今私がやっているのが、カメムシが発生してからの防除というのは非常に難しいなと感じています、昨年やってみて。それで、今やっていることというのが畔の草ですね。これが今、皆さん除草剤撒いて枯れているかと思うのです。冬場ですので、枯れています。それで、バーナーを持って今焼却しています。要は、越冬する数を減らせば発生する個体の数が少なくなるというのはもう分かっていますので、そういう管理をしていくことによって、カメムシとか他の虫も、

発生を極限少なくできると考えて今やっているのですが、そういうことを農業委員会として、こうやってください、こういうやり方もありますよというのを町の農業者に対してアピールしていただけるともっと私は助かるのではないかと考えているのです。あと、耕作放棄地ですけど、これもやはりそこに虫とかいますので、冬の間になんかの処置をしてないと、越冬する数がすごく多くて、春先からどんどん発生してもう手につけられない状況になりますので、じゃ、そこをどうするかっていうのもあると思うのです。例えば、所有者が分かっている耕作放棄地であれば草を消防署に話して焼却してしまうとか何かのやり方というのがあるかと思うのです、薬剤を撒くとか。そういうことをしながらカメムシとかそういう虫の発生を抑制していくという方向性を見出してほしいというのが私の意見です。

椎名農業委員：先ほどの件と重複しますが、カメムシの件について、昨年あたりから農業委員として、会長含め農業委員で耕作放棄地を綺麗にしようということですずっとやっています。それで、なぜカメムシが出るのか。天神原は出た人はいないです。全員が意識を持って消毒する、100 パーセント。それで、やらなかったところは出ました。それで、全員がみんな畦を綺麗にする。だから、農業をやっている個人のモラルだと思うのです。それを一応やってくださいということをいつも会長などはやってくれていて、私としては何も力がないのですけれども、口頭でやっていただいているというのがとても感謝しています。またそれが励みになります。ですから、やっているって、先ほど会長はお金がないというのではなくて、口頭でも私は十分やっていただいていると思うのです。その辺をご理解ください。

柿沼議員：先ほどからカメムシのお話が出ていますが、昨年は音頭を取っていただいて、カメムシの講習会をやっていただいて、出穂前と出穂後と 2 回やったほうがいいですよという技術的なアドバイスのもとに、私は 9 割ぐらい、2 回できました。それで、1 割ぐらいは水がよく入らないところなので、どうしても、管理機でやるものですから、田んぼの中で渋滞してしまうので、1 回しかできなかったところが 1 割ぐらいあるのです。それで分かったことは、2 回防除できたところ、出穂前と出穂後ですか、2 回できたところは、ほとんど 1 等が 2 等で検査を受かっているのです。それで、1 回しかできなかったところというのが、やはり 1 等、2 等、3 等と 3 種類できてしまったのです。初めて 3 等ができてしまったので、それだけカメムシの勢いがすごかったと実感しています。いずれにしても、これだけの異常気象がしばらく続くようなので、やはりその農家に基本的な防除をやる、あるいは、先日講習会がありましたけども、ドローンによるそういう委託してやるとかして、農家も工夫して、やはり積極的に防除をやるというようなのをやはり農業委員会の方も PR していただければ、今後も講習会をまた開いていただいて、その辺の基本を徹底していくというのは大事だと思います。それから、農業委員会長が、その前の舞木の土地改良が必要だということなのですが、利根川新橋ができることによって、その取り付け道路がまだ確定していません。その取り付け道路がある程度固まって、そうすればやはり再編というか、土地改良というのは必要になると思います。ですからその辺は、議会としても今後研究していく必要があるかと思っています。一応体験を踏まえて、そんなところですよ。

荻野農業委員：工業団地が、工場ができるというお話がありまして、うちも息子と 3 人で稲作と酪農をやっています。それで、あの工場ができると、ただでさえ今回、間々下道路のところはゴミがたくさんなのに、もっとゴミを捨てられて、機械が通るとかして大変だと思うのです。それで、農業新聞に、飼料が高いから自給飼料を作ったほうが良いと載っていたのですが、自給飼料を作る場所がない、なくなってしまうのです。それで、下中森、上中森はすごく田んぼが綺麗だから、できれば管理できてないところに工場を建ててもらいたいと思います。それで、うちはお米ありますか、お米ありますかと来てくれる人がいるのですが、スーパーのお米はすごく高いです。それで、やはり農家さんが儲けなしで売る。うちは儲けなし親戚などに販売するんですけど、もう少し利益があって、スーパーのお米が高すぎるし、町の人も日本の皆さ

んが生活するのに大変だなと、スーパーで買っている人は特に。ですから、もう少し、食料自給率が日本は30何パーセントなどとなっていますから、もう少し、工場を作ることも大事なことです、田畑をしっかり管理して、美味しいものを作ることも大事だと私は思います。

大谷議員：私がすごく疑問というか、仕方がないのかどうなのかと思っているのは、千代田町というのは、当然全部が平面ですよ、山がなくて。堂山とかあるにしても。それで、集落というのが江戸時代を含めて点在してきてしまった土地なのです。いいか悪いかで言うのであれば、宅地と農地と工業団地っていうのが分かれた都市設計というのができていけば、こんないいことはないのです。それで、こんなこと言ったら大変失礼なのですが、下中上中のお米というのは美味しいのです、やはり。それで、そこを、では明和とつながっているからといって、工業団地を、あそこはつながっているから、いい田んぼを潰していくというのがやむを得ないのか、いいのか、そこはとても疑問に思っていて。それで、農業委員さんがおっしゃるように、舞木とかあの辺というのは、比較的質は落ちますよね。だから、地元に住んでいて、要は、本当は農地を潰すのだったら、そうしたところを潰せばいいのではないかとというのは基本的に思うのです。けれども、では宅地が多いから工業用地は作れないとかね。それで、下中森はあの辺は空いているから工業団地を作る、でも優良農地だと、そこを潰すというのが、どうしてそうなるのか、それでいいのか、将来的に。そこをすごくやはり、行政も含めてですが、すごく私も疑問を持っていて、その辺農業委員会、農業委員として、やむを得ないのか、町の発展なのか。でも、本当は農地をこうしてほしいというのがやはりおありでしょうから、その辺何かご意見を聞きたいと思うのです。だから、本当は中島とか舞木地区を開発して工業団地にしたほうがいいのかと心の中で思うのですが、いいところはちゃんと残してほしいという、そういうふう基本的に思うのですが、やっぱり都市設計がやっぱり下中森に集中して工業団地を作っているという現状をちょっと、いいか悪いかは別とし、どうなのかと思うところがあるので、その辺を何かご意見があれば伺いたいなど。

栗原職務代理：今の意見なのですが、今冒頭に会長から話があったように、この問題は、千代田町の西部と東部で分けた時に、西部は永楽、東部は富永ですよ。それで、おっしゃられるように、東部地区のお米は利根川の土手が切れたりして大変全体的にうまい米が取れるのです、これは事実です。そういう中で、なぜ工業団地をこうしていくのだと、これは私も同感です。なぜやってしまうのか。そこで、私が知りたいのは、千代田として農業を、どういう区分で進めていくのか。要するに、工業団地はこういうふうにしていく、農業はこうやって残していく、そういう戦略的な考えがどうなっているのか、その辺をまず知りたいです。そうしないと、今言われたように、闇雲に、こっちは工業団地が隣接しているからここをこうするのですよと、では逆に新橋ができたから、新橋に沿って全部工業団地にしてしまうのか。そうすると、闇雲に、農業に力を入れるということが言葉では言えても、実際的にはなし崩し的にどんどんそういう形になっていってしまうのではないかと。ですから、まず農業を、今できてしまっているのは仕方がないが、残していったって、ここは重点的に農業。それで、ここも将来的に道路ができて、この一角は工業団地にしていかなくちゃいけない、ここは残さなくちゃいけない、そういうプランができていますのかどうかですね。そうしないと、これはたちまちで、いつまで経ってもそういう掛け合いだけになってしまっていて、なし崩し的に結局は農業やりたくてもできなくなってしまうと思うのです。

もう1つは、そういう現実を踏まえて、農業に従事していると高齢化が進んでいます。それを見ている子供は、どんどんそういう姿をまざまざと見ているから、面白みがないわけです。では、この土地をきちんと区画整理して、用排水をきちんとして、ここだけは残すのだから、では拡大していったって、その野菜もできる、果物もできる、そういうプランが出来上がっていけば若い人もつくと思うのです。何しろ収入が見えないですから、その辺をきちんと皆さんでプランを練って、どんな形に千代田町して行かれるのか、その辺をご検討願えれば私としては非常にありがたいなと。そうすれば、農業委員会としても、その中の農業をどうしていくのか、前向きに考えていけるのではないかと私は思うんですけども、検討のほどよろ

しくお願いいたします。

下山農業委員：先ほどカメムシの被害があったという話で、どういふ処理方法がいいのだろうか、今現在も模索してやっているのですが、もう 10 年前から平均気温が 1.5、約 2 ぐらい、この千代田あたりは 1 番日本で 1 番暑いような土地柄ですから。私のやっていることは、まず米づくりの株数を開けている。最大限開けて、本数も少なくして、風通しを良くするような栽培を心がけているのです。一反でどのぐらい枚数入れますか。

原口議員：昨年ですと 8 枚ちょっと。

栗原職務代理：少ない。10 アール。

原口議員：自分は疎植栽培をしまして、30 センチ 30 センチの四角で 4 本しか植えません。それで、本数が 2 本から 3 本しか植えない。一昨年ですと、反当り 10 俵とれた。昨年は 8 俵が少し欠けるくらい。

椎名農業委員：それは銘柄は何ですか。

原口議員：にじのきらめきとコシヒカリ。コシヒカリのほうは去年は 6 俵くらいしかとれませんが。

栗原職務代理：それはすごい。

下山委員：私はサラリーマン上がりだから、本当にいろいろ計算もして、昔は一反当たり 22、3 枚入れて、じいさんがやっていた。株数もこんなにいなるから、半分でもいいかと思うくらいに、一気に少しずつ減らして、今大体 15 枚です。

原口議員：私が前は 15、6 枚入れてまして、そのときの株数、こんなものなのですね。疎植栽培しますと、2 本か 3 本植えたやつが、そこまで成長するんですよね。ただ本当に、10 俵をとるとなると、肥料のまともりは増えます。出穂のちょっと前に追肥もするんですけど、そのタイミングが合わないとな収量はあまり伸びないのかなと。10 俵を超える圃場も出てくるっていうのが。

下山農業委員：農家をやっていて、私も 10 超えたときもありました。10 超えたと言ったらもうじいさん大喜びして、こんなにとれるのはめずらしいと。でもやり方によって、少しずつその改良はできるのかなと。そういう思いもあって、まあとりあえず、最近カメムシがいろんな被害を、でも去年、ある 1 軒の農家をもう集約して、次の担い手を見つけたというか、後ですから、あとは 1 件、誰って言わなくてもおおよその人は分かっていると思うのですが、かなり舞木の田んぼも綺麗になるということで、カメムシに関しては随分被害は少なくなるかなと思っています。で、当然、カメムシの薬も、私あえてくろまで、隣にかかるぐらいまで回りますけど。それで、自分、うちのところだと、やっぱくろの中に頭を突っ込んでいる虫も結構多いので、それを皆さんが一同に同じようなことをしていけば、かなり改良されるのではないかとと思っています。あともう 1 つ、舞木の中でも、私が見ている範囲で、空き家の木々や草が塀を越えて、道路を越えて、もう隣のうちの圃場まで、枝がこういうふうになっているところがもう何か所もある。去年の夏はチェーンソー持って行って、随分出ている分だけ切って、中には入れないので、もう少し奥まで切ればいいのかと思っています。こういう事案が、議長さん、この千代田町でどのぐらいあるのか、これからどうしたらいいのかという 1 つのあれです。ちょっとまた話違うのですが、新橋の話もさっき来ましたが、完成まで、あとどのぐらいかかると思いますか。それを待っていて周りの道路云々なんて

議論は到底できないかなと私は思っています。ただ、舞木の担当ですから、変な業者があつた土地を買いいたいとか、そういう情報があれば、まっすぐ飛んでいって、話聞いてきますけど、大概が東京あたりから来る、その太陽光発電で土地を買って設備を作るのでしょうか、ゆくゆく通った時の転売目的の、そういうのもその疑いが出るのかなと少し懸念しているところです。そういった事案をこれからどうしたらいいのか。我々だってここにいるね、年齢的にもあと 10 年耕作できるかどうかまた不安になる年の方ばかりで、後継者どうのこうの、そういう問題もあるでしょうけど、やはり優先事項を皆さんで共有していければいいかと思います。

蛭間農業委員長：私のほうから短く 3 点ほどございまして、先ほど原口議員のほうにあった、やはり野焼き条例、この辺もなぜ制定してほしいのかというのは、渡良瀬遊水地で毎年野焼きをやります。それが東へ西へと。当然、板倉明和千代田、西へ上がってくる。そういうところで、今日に明日できないでしょうけども、検討事案として、耕作放棄地焼却踏まえて、検討をしてくださればありがたいと、そういうふうに思います。よく、町外から本町に転居された方が、なんか火を燃やしているとすぐ役場ならびに分署並びに 110 番通報してしまう、また携帯で動画を撮影されてしまうという事案がございまして、その辺を踏まえて、町の条例で、野焼き条例も是非制定に向けて検討していただきたい。もちろん、その限られた時期になろうかと思いますが、やはり渡良瀬遊水地から出たイノシシ、キョン等が、西へ西へと来る、もう来ているということです。もちろん、利根川の中のものに対しても、焼却、利根大堰から赤岩のところまで、ゴミ拾いする場所の中で野焼きできる場所、また千代田の土手のところで焼却できる場所があればしていく条例ができるとありがたいなと。そういった状況で、良しとしないところで通報と動画撮られちゃうので大変厳しい状況がございまして、是非その辺。私も天気の良いところでこれから畦を燃やしたいというところがございます。昨年、欲をかって 30 枚田んぼを増やしまして、若干、やれるところもありますけども、除草剤撒くタイミング遅くて、ちょっと焼却したい場所がございます。そういったところもございまして、ただ、私が農業委員長になって、麦わら稲わら、ある男性の方が軽トラで尾行されたと、携帯を持って 1 日中追撃を受けたという事案、通報される事案がございまして、十分注意はしておりますけども、昨年、やっぱり夏バテをして大変厳しいところもございました。そういったところで、野焼き条例の制定も検討していただきたいと。それが今日明日にできると思いますが、そういった時には消防並びに警察との連携プレーも必要だと思いますが、是非ご検討をお願いしたい。

2 つ目は、やはり先ほど農協の組合員数が高齢化していると。そういった中で、いかに他所、他のところから若者を誘致するかというところで、私のところは、約 5 年前に、小さい農家なんですけども、株式会社にして、蛭間という 2 文字は一切入れない会社名で設立して今年 5 年目というところで、昨年、高校の 45 年後輩から蛭間さんのとこで百姓やらせろというところをいただきまして、今年の 3 月、会社を辞めて農林大学校へ行けというのが理解できればオッケーだということで、彼も相当悩んで、なおかつ 4 回ほど面談を、高校の同級生、地元の方含めて 4 人で面談して、彼の意思も固まったというところで、3 月辞めて農林大学入学と。で、10 年後に私の設立した会社の事業継承者ということで話を詰めています。そういった中で、是非お願いしたいのは、そういった若者に対して、町の、手厚い支援まではいかないにしても、支援の拡充を願いたいと。その彼は今 24 歳で、横浜で IT のアプリの開発をしています。全く、大学は教育学部で学校の先生の免許をとっております。おりますので、全く農業やったことないんですけども、チャレンジャーとして 1 年、2 年後に本町で私と一緒に農家をやっていくという意思を固めてくれたので、夜逃げだけはするなよという話を常々しております。IT でやっている 28 度の部屋と本町の夏は 42 度、この中で長く汗びしょりで作業できるのかという状況もありますので、絶対夜逃げするなと、それが条件で、10 年後、代表やってくれというお願いをしました。うちは 3 人娘なので、お父さん 3 人とも農家やりませんよという事案がございましたので、渡りに船というところもございまして、彼の思う農業への思いと、私の設立した時に 20 代の若者にバトンをつなぐという意味があったので、非常に天が与えてくれた運命かなというところで、彼をなんとか一丁前の農業者に育成したいというところござ

います。

そういった中で、やはり支援が必要となるのは、そういう就農者の支援と、次のステップにある 3 つ目、農業機械の補助というところで、もう少し拡充をしていただきたいと。政府の指針で、大手メーカーさん、5 パーセント給料上げなさいというところで、昨年、ヤンマー農機が 4 月 1 日より 5 パーセント農機具がアップと、7 月 1 日より某メーカーが 5 パーセントアップという現状の中で、うちのコンバイン、24 年経って大変劣化している状況でございました。で、当初は 4 畳刈りを検討しておったのですが、何とか後継者なるものが見つかったということで、6 畳刈り、食味センサー付き、これを見積もっていただいたら 1 千 9 百万超えと。7 月 1 日から 5 パーセント上がり 2 千万超えということで、小さいお財布の農家も決断しました。6 月 26 日、そのコンバインを発注しました。半年間、食味センサー付きなので、関東エリアで展示機として半年間使ってくださいと。で、いくらコストダウンしてくださいというお願いをして、多少安くしていただいて、そういった形で、6 月 26 日と 7 月 1 日の差というのは 100 万違ったのです。農家で 100 万利益を上げるっていうのは大変なことなのです。そういった形で一応見積もりとカタログは出してあります。で、しかしながら、50 万円が最大の上限ですので、是非その辺を、おそらく後継者に名乗り出てくる人、もう少しちょっと金額がアップしてほしいなという声が私以外にも当分、当然出てくると思います。その中で、限られた予算の中で 1 円でも多くっていうところを検討していただきたいと。よく思うのは、館林の大きい農家、80 ヘクを超える農家が 6 畳刈り 2 台、2 トンの煽りの高いダンプ 3 台、うちの隣で刈っていきます。あっという間に 5 反の田んぼを刈っちゃって、あっという間に 3 台のダンプにぱっと積んでいなくなってしまう。こちらは 24 年物の 4 畳刈りでしたので、全然歯が立たない。これが 2 年後、就農をしてくる若者が見た時に、戦う武器がないじゃないかという判断をされると、私も大変苦労すると。当初は 4 畳刈りでいいと思っていたのですが、あえて 6 条にレベルアップして発注しました。そういったことで、1 番なのは、やっぱり野辺から遠征隊がここ 10 年相当増えているので、もちろん西部地区も大泉のある農家がこちら結構遠征にきていますが、そういった部分で、やっぱり千代田の農地は千代田で守りたいっていうところと、やはり 20 代、30 代、40 代の農業者をどんどん増やしていかなくてはならない。当然 10 年後団塊の世代がリタイアしていく、そういうのがもう見えているわけです。その辺、町内 6 次化の数年前、6 次化の私も委員をやらせていただいて、千代田中の生徒の皆さんが将来千代田町に住みますかという問いかけのアンケートに対して、圧倒的多数が千代田に住みません。私、手を挙げてもう 1 回アンケートを取ってくれと。私の記憶の中では、もう相当数の千代田中の生徒が、その数年前、千代田に住まないというアンケートの回答を見た。愕然としました。団塊の世代が卒業して中学生が大学を出て都会に行ってしまう、あるいはメーカーさん、スバル踏まえて、メーカーさんが行ってしまって、田んぼの仕事なんかできないと。今頑張っている 60 代、70 代の人が機械の更新の時期を来た、迎えても設備投資できない。大きい農家がどんどんいい機械でやっている。このギャップの中でどう戦うのだというのが局面です。だから、そういう部分を踏まえて、その千代田で農業したいっていう若者の支援並びに機械支援、この辺もぜひ拡充と検討、限られた予算ですから、そんな話言ったら 1 円も増やせないというのが現状かもしれませんが、ぜひ課題として挙げていただきたいと。思います。

原口議員：下中森の農地を工業団地にするという話が 17.5 ヘクタールで出ているというところのちょっと関連の話なのですが、工業団地にするというのは、もともとジョイフル北側の農面道路が北側をするという話が 30、40 年前から出ていたのです。そこを工業団地にしようという動きをした時に、明和町が今ある TOPPAN のところに豚舎があって、そこを移転させるのに数億円かかるという話があって、千代田としては、そのジョイフル北側の道路のところにある畜産場と養豚場と 2 か所を移転するのに費用がかかりすぎるので断念したという経緯を私は耳にしています。それともう 1 個、下中森と上中森が工業団地に選定されているのは、土地改良をやっていないというので、1 番やりやすいと。どうしても、土地改良をしたところだと、国の補助金が入っているんで、許可が取りづらいので、それが入っていないところをやりましょうということがあって、下中森、上中森が候補に上がっているというのが、私が聞いている工業団地

の経緯です。あと、会長が言った野焼きの件ですけど、2023年12月定例会で私が野焼きの件を一般質問しましたが、その回答は、町側はもうやりませんという結論が出ていますので、そのところをどうにかしないと、害虫の問題というのはクリアできないではないかというのが私の感想です。

大谷議員：私も後天で20年おじのところで麦刈り、田植え、稲刈りやってきたのです。そういう中で、昔のことだから二毛作がほとんどなので、ビールをやった後に、川島牧場さんみたいな、当時もわらを持っていないので、燃やしておけと。それで燃やすのも、朝の湿気のある時では燃えないので、大体昼過ぎぐらいからよく燃えるわけなのです。それはやはり、多分後天、舞木もそうでしょうけど、旧家が多い中で野焼きをしても、周りのうちがみんな農家だから、多分そんなに文句は出ないのではないかという気がするのです。おそらく出るのは舞木赤岩の新興住宅地の人、あるいは17区のふれあいタウンの人とかなのかと思うのです。それはやはり野焼きというのは、それはやらなければやらないでいいんでしょうけど、いいというのは、住民にとって。ですが、理由があって野焼きをしてきたのです、何百年も、おそらく。それで、米だけ作っているのであればやらなくても済むのでしょうけど、千代田は特殊性で、やはりビール麦を作っている人が多いですから、ビール麦を作って、麦わらが残っているというのは、やはり田植えをする時にやはり代掻きを上手にしないと浮いちゃうとか色々あるので、やはりそこは、こういう土地柄なので、例えば6月とか5月のそのビール麦を刈った後の野焼きは、皆さんでそのくらいは我慢しましょうというのは、僕はあってもいいかなと思うのです。それで、住んでいると、燃やすと洗濯物が臭くなってしまっとか言うのだけど、これは田舎の匂いだからと言うのですけど、やっぱり自分ばかりがいいというわけではなくて、皆さんがいる中で、共同社会で生活していくのだから、やはり野焼き、毎日が野焼きをするわけではないのだから、時期的に2週間ぐらいの間、順繰りに刈りながら燃やしていくとていう順番でやっていくのでしょうけど、それはやはり後から越してきた人に対して、こういう土地柄なので、その時期は洗濯物とか布団干しに注意しながら、もう勘弁してくださいというのは僕は大事なかなと思うのですけど、どうでしょうか。反対の方、いらっしゃいますか。

柿沼議員：うちのほうの田んぼというのは、住宅地もあるので、川島牧場さんに麦はほとんどやってもらうのですけど、雨が續くと能力が間に合わないのです、雨ばかりで。それで、納期も田植えが迫っているのです。それで、本当の住宅地のところはやっていただいて、影響がないところは、雨がずっと続いた年というのは、やはりもう川島牧場も間に合わないと、最初投げてしまうのです。それで、役場にも話して、燃やしてしまうからということで、燃やしてしまうのです。だから、業者もそこまで回りつかないので、やはり雨が續くと田植えの時は燃やしてしまうのです。だから、それはやはり野焼き条例とか作ってやはり理解を求めるのが大事かと思います。

蛭間農業委員長：会長としては、賛成も反対もできないと。私も下中森から裏新福寺まで耕作をさせていただきながら、千代田ってこんなにいろいろな場所があるのだなと思いながら耕作しております。裏新福寺から下中森の田んぼまでトラクターで行くと1時間以上かかる、そういった状況の中で、燃やしてしまうところと、当然、延伸が拡張されて交通量が増える、あるいは新橋ができて通行量が増える、どういうふうに道路が建設されるか分かりませんが、確かにビール麦、稲わらを燃やすと一瞬、他県から来た人たちは一瞬見えなくなります。大きい事故が発生しかねない、そういう事案も想定されます。特に私が鍋谷前で運送会社あるいは鉄鋼関係の事務所の前に圃場があるのですけど、耕作している。非常に、一瞬コーナーで見えなく車になるんで、田植え機なんかで出ると、もう本当に車でぶつけられちゃうという状況で、手を2本挙げて止めるなんていう。燃やすことも大事だし、燃やせないってということも、住民感覚で、私がさっき言った野焼き条例っていうのはやはり冬場で1月、2月、3月、この辺をターゲットにということと、国の指針の中で、農業者がどうしてもその量をマージするために燃やしてもいいという、条件付きの項目があるのは知っていますけども、そういった部分でケースバイケース、もちろん、川島牧

場さんにわらの集荷もお願いしていることもございますので、柿沼議員がおっしゃられたように、昨年雨でわらが上がらないと、麦播きができないといった状況も拝見しています。色んな部分でメリット、デメリットのある中で、やはりやったほうが良いというところと、やらなくてもいいのではないかとこのところ。私が小麦を作っていると大体代掻き3回です。1回掻いて、2回目でも終わらなくて、もう1回。3回だと遅れに遅れる。おそらくうちが6月の中旬から7月中旬まで田植えをしているのですが、千代田でももう6月1日から2日、3日で終わってしまう地区もありますから。それで、7月下旬になっても、千代田地区、西部地区では20日過ぎても田植えをやっている。毎回いつも言って恐縮ですけども、千代田中來ないので、夏休みを超える日数で東部地区と西部地区で田植えの時期が違うのです。だからにじのきらめきを西部地区の人が作ったらとれないのです。刈り取りが1か月以上差があるので。だからこういう部分を踏まえまして、やっぱり野焼きという部分と、事故の防止っていうのが非常にこの辺は慎重に、知恵を出し合いながら。で、あくまでも渡良瀬遊水地の事案を本町としてどう見習って実行するのかっていうところでいかないと、延伸道路、新橋ができたときに、事故の発生をやっぱり未然、考慮して検討していかなくちやいけないのかなと。

橋本和之議員：農業は素人なのですが、まず、私が今日の場で驚いたというか、最初会長が、農地が減っている、ちょっと問題だと、いろんな開発も含めて。それで、農地が減るとダメなのかと。もともと私の地区は、耕作放棄地がたくさんある。あと、年数が行くと、子供の世代になると農業をしなくなる。今、農業、農家の方も、何年か後には農家ではなくなる可能性というのも非常にあるのかなと。そうすると、その引き継ぎの中で耕作放棄地も出ているのが多分現状かと思っているのです。そうすると、農地が減るのが問題なのかと、最初聞いた時に思ってしまったのです。確かに、優良農地がなくなる、工業団地とか、それはまあまあ問題というか。どうせなら、たくさんお米が取れる農地が残って、取れない農地が開発に回る方が理想なんですけど。ただ、そう全てはいかないのだろうと思っているのですけども。その中で、優良農地、ここは農地としてずっと活かして、ここは開発していくというのが分ければ、もっといいのかなとは思っているのですけども。大前提というわけではないのだけど、やはり農地を引き継ぐ。例えば、さっき舞木のところで、2つ耕作をやめた農家の1つは見つかったのだけど、もう1つ見つからないというお話があったかと思うのですが、これは例えばどういう理由、色々あると思うのですけど、耕作しづらい土地ばかり残ってしまっているから引き継ぎがないのだとか。そうすると、農地はあるのだけど農地として利用できないというのをやはり解決していくというのが農地をこの先も長く、続けていく上では必要なのかと素人ながら思っているのですけども。それが耕作放棄地のままだと、カメムシも増えるでしょうし、いいことはない。でも、農地としてある。ただ、耕作放棄地というの、みんながみんな、いいように解決していこうと思っているとは思っているのですけど、これが今日聞いていた意見かなと思っています。

蛭間農業委員長：議員さんのおっしゃるその保険業務と農業という次元の仕事ですよね。私も長い間、農業と他の仕事を兼業で40年以上やってきました。農業委員になったのは45歳の時でした。それで、長年続けてくると、やっぱり若者にバトンタッチする。当然親を見ていると60代、70代、80代。自分もつくづく60代後半になって、70代がすぐそこに見えて、気持ちは16歳、体が60歳。よく後輩に言うんですけども、その現実のギャップにあった時に、やっぱり農業っていう事業を継承する、うちは24歳の若者が共に汗をかこうっていうのが見えてきたから、若干ほっとしています。しかしながら、この若者の人生をないがしろにしないように、自分が何をしたらいいのかっていう、常に決まってから、もう自問自答で、うん、頭の中がいっぱいです。彼の人生を狂わせるわけにいかないと。で、彼がもう20代が集う若者、10人以上の会社にしたいと。当然100ヘクタール以上を目指すんだろうなというところと、ITと農業の2通りやらせろということもあるので、そういった事案を考えますと、やっぱりロシアの侵攻以来、オール14が、いわゆる農業の基盤の肥料が高騰したというところを踏まえて、いわゆる3.11以降、あるいはいろんな

その気候変動等々で、もう鉄骨、生コン、うちも農作業場検討しているのですけども、今日に明日できない。でも、立米いくらになってしまうのです、4月からと。うちが農作業場の試算、見積もりしたら、6千数百万。付帯設備、約4千万。もう1億1千万から2千万かかっちゃう。コンバインを買うのにそんな作業場と設備できない。もう常にその若者に武器を渡すために試行錯誤しているけど、お金がない。そんな借金できない。娘には借金残せない。会社で借金しているわけですけど。そういった中で、去年の夏から大都市周辺のスーパーでお米が消えたと。おそらく大手商社並びにお米問屋、相当買い占めて持っているのだらうなど。ここ2、3年、政府の備蓄米放出、非常に農業者としてはもうこのアップダウン、愚弄されているわけですね。決して農業者は儲かっているわけじゃないです。間接商社が儲けを模索していると。そういった中で、千代田の農業を展望していくのだというところがございますので、やはり魅力ある農業と、綺麗な野菜作るなら最低何回以上防除しているのですよということを踏まえながら、やっぱり儲かる農業と魅力ある農業と、そういうことを考えると非常に難しいと。で、私が応援している太田の太田中学校ってありますけども、あそこの校長から職場体験、農業体験をやらせるというところが3月6日、7日に決定しました。何をやるかと色々検討中です。しかし、5日から議会で、色々考えると頭のちいっぱいです。しかしながら、中学生の職場体験、中学1年生、3人受けることを決めました。10年すると大学を出て社会人です。1人でも千代田で農業やってくれということを心で訴え、ご両親がいますからね、そんなこと言っただって、と言われるから、あえてそれは心にとどめて、千代田で農業やってくれとはその場では言いませんけども、何年後には、高校生になったらリピートで来てくださいますとか、色々言っています。そういった中で、やはり町内の農業者を、千代田中の生徒たちが要するに出て行ってしまうという現状もありますから、全て出ているわけではありませんが、やはりそういう部分を我々今の世代がしっかり受け止めて発信していくということが大事なのかなと思います。

金子農業委員：町の方針として、この農業の位置付けが、どういう方針で行くのだというような、参考になる意見があれば議員の方々にお聞かせ願えればなという気持ちはするのですけど、いかがでしょうか。

柿沼議員：先ほど副会長のほうから話があったのですけども、中森の工業団地なのですけども、その前に、その中森地区は、その下中森は工業団地を1か所作るような話がずっと出ていて、上中森のほうは土地改良をするというので、図面まで、襟川町長の時ですかね、図面まで引いてやったのです、4、500万近くかけて。ただ、住民の一部のその賛同が得られなくて、計画、2、30年前ですから、それでボツになってしまったのです。だから、そこがある意味ターニングポイントだったのではないかと。そうすれば、麦もできますし、ある程度生産性の高い農業が展開できたのではないかという感じです。ですから、中森地区については、その2、30年前がそのターニングポイントだったかなというふうに思います。いずれにしても、先ほど、これからの農業展開どうなのだというお話なのですけども、やはり儲かる農業というか、やはりそれを目指さないと後継者もできないと思うので、やはり新福寺のほうでイチゴ栽培をやっていますけど、館林市で後継者のあるところというのは、やはり板倉・渡良瀬のキュウリとか、そういったやっぱり新しい展開っていうのも必要になってくるでしょうし、土地利用に関してはやはり耕作面積を、土地利用型ですから、生産性を上げなくてはならない。それで、畜産に関しては本当に少数精鋭でやっていただいていますけど、本当に酪農とか厳しい、餌が高いという状況で大変でしょうけど、いずれにしても、値段が決められないという農業者の立ち位置、それが一番厳しいのではないかと思います。いずれにしても、やはり町としても応援していくということには変わりないかなと。議員のほうもそういったスタンスでやっていきたいと思います。

新島農業委員：いろいろ意見は先ほど来から会長はじめその他の方々がおっしゃっているので、1つ、できれば、農業後継者が増えないのですね。これがなぜ増えないのかということ、色んな理由があると思うのです。例えば、農家は昔から土地と農地を持って、この辺で言えば米麦中心に作っていけばとりあえず食えたと。

ここからスタートしているのですね、大体どこの地区も。この「とりあえず食える」がもうできなくなってしまったのですね。食えるだけじゃなくて他の物が、いま例えばスマホを使うにも、3万4万、家族で使う。昔そういうのはなかったわけです。だから食べていけるだけの収入があればなんとかやっていけるという時代だったのですが、今やそういう時代ではなくなってきたわけです。だから後継者いないわけです。で、先ほど会長が話しましたように、後継者を見つけても、収入が見合わないのですね、投資した分だけの収入が得られないのです。これが現実なのです。ですから、私からお願いしたのは、後継者を中心に支援を、本当に本格的に農家をやるという人に厚い支援をしていただけるような、そういう仕組みを町として作っていかなければいけないのかなと。ご存じのとおり、会長がお話したように、機械1つ買うと何百万です。私は小さい農家ですけど、小さい農家でも何百万というのは何年分にも匹敵するのです、収入の。総収入ですよ、利益じゃないです。そうすると、後継者もないです。それを見ている子どもは、何だ、こんなことをやっているのか親父たちはとってしまうので、まず後継者はいないです。ですから、そういうところが見えないように、またそういう人達を支援しながら、必ず、頑張れば利益が出て、人並みの生活ができて、それ以上も頑張ればできるのだよっていうところを見せてあげるサンプルを作らなくてはいいけない。それにはやはり、何百万もする、何千万もする機械を買うのに、今20パーセントです。それでも一部です。マックスですよ。1,000万の20パーセントですよ、補助。それではとてもじゃないけどやっていけないです。多分皆さん大きくやっている方はご存じだと思うのですが、それでも足りないのです。ですからぜひその辺の支援体制が整えられる、そして後継者ができるというような仕組みを考えていただければ。我々今農業委員としては、会長が冒頭お話しているように、現場で細かい、伝えながら活動しています。だから、予算のない中で活動しているわけですから、直接行って、ここは草が生えるので、カメムシ対策とは言わないけども、早めに対策してくださいとか、そういうことをやりながら各委員さんは活動しているわけですから、そういう細かい活動を我々がしている部分を見ると、何をやっているのだと思われるかも分からないですけど、ぜひ支援体制を確立していただきたい。それには金子さんがおっしゃったように、町として農業をどうしたいのだというの、ぜひ含めて、やっていただければいいかなと思っています。そうすると、支援の体制の仕方も変わってくるのではないかと。機械買うだけではなくて、米麦で生きてくのにはどうしたらいいのか、農協が今年マックスで1俵あたり2万いくらかで最終的に買いますよと言ったけど、実際それで高いと、市場からみれば高いって言われるのです。とても合わないです。ということはどういうことかなと。そういうことをぜひ皆さんが実感していただいて、市場が高い高いと言っているけども、ではそれは消費者の立場から見ればそうかも分からない。でも米だけ上がっているわけではないのですよね、他にも上がっているのです、工業用品も。だけど米は高いって言うのですよね。だからこれは国が守っているからしょうがないですけどね。米と牛乳と卵はなかなか儲かる話じゃないって言っていますけども。そういうのを含めて、ぜひ後継者に対応できるような、後継者ができるような支援システムって言うのですかね、そういうのを考えていただけると非常にもう我々は交代していく身分ですので、できるだけそういった人たちを作っていきたいなと思っているので、お願いしたいと思います。

蛭間農業委員長：ちょっと補足で短く。こういった討論の場を設けていただいて大変ありがとうございましたということと、次代を担う若者にどうバトンをつなぐかというのが、議員さん方も我々農業委員も大切な仕事だと思っています。それで、幅広い支援策をということと、しっかりとガイドラインを設けて、ただウェルカムじゃなくて、やはり千代田に来て、しっかり汗をかいて、所帯を持って、転入・移住していただいて、お子様方が千代田の小中学校へ入学して、という姿を見ながら、あのときに、今日、2025年1月28日、会議をやって良かったなと、10年後に言えるような会議、やっぱり支援にはやっぱり条件を付けないと、今世間で闇バイト、千代田、ウェルカムと言ってもやっぱりハードルはある程度高いよというのを、誰でもいいよってわけではないですから。うちの後継者も高校の同級生ともう1人、4人で面談をしっかりとやって、くどいようですが、いち抜けたはないよと、くどく話をしました。先般、石の上にも3

年じゃなく、石の上にも 10 年くらいの気持ちで農業に取り組んでいかないと非常に厳しい。お給料欲しかったら結果でいただいて、ということを申し述べました。それで、千代田中の生徒の皆さんが他の大都会に行かずにふるさと千代田で農業をしながら色んなことを考えながら、うちの後継者、農業と IT の二刀流、かっこいいけど本当にできるのかということを言っていますけども、そういう若者が、1 人でも受け入れて、ライバル意識を持って千代田の農地を守っていただければ幸いです。ぜひ議員の皆様には更なるご意見をいただきながら、千代田の農業を守るために我々のサポートをしていただきながら、我々いつも言うのですけど、裁判所でもない、警察官、警察でもない、はっきり言って武器がない、その中で、何をやっているのですかと言われたときに、近年では、鍋谷周辺の農地で荒れて 2 m 以上の耕作放棄地を、私もこの 23 年の中で 10 枚以上きれいにしてきました。また、近所の 50 代の後継者が心臓を痛めて、蛭間さん何とか預かってと、2 畝の陸田と L 型の 7 畝の陸田、利根加だと 2,550 円、陸田だと数千円の水利費、で、今度はまたポンプが壊れちゃったら直す。さらに 10 アール当たり 10 万円以上かかる、こういう中で戦っているわけです。軽油も 150 円時代、非常に厳しい戦い。ぜひ、決して農家が儲かっているわけではない、そういった中で、うちも商標登録、あるいはいろんな武器を備えながら、将来来であろう若者に対処すべく、資格取得、6 次化の商品の開発に向けて、そういった武器を 1 つ 1 つ整えながら、若者と共有しながらいければと、やはり知恵をいただかないと。ぜひ、忌憚のない議員の皆様のご意見を賜りながら、何とか千代田の農業を守っていきたいということでお願いできれば幸いです。

茂木議員：私の父も実は農業をしております、自宅で食べるお米だけを作っているわけなのですが、先ほど大変ご苦労のあること等は非常にお伺いして、そうなのだという新しい発見等もあったのですが、ぜひ私からお願いは、農業委員会の方もそうなのですが、農業やってこういうところが良かったという、そのいいことの方の発信もぜひしていただきたいなという気がします。私の父は、畑とかを耕しながら野菜を作ったり、何を作ったり、ぼんぼこであるとか、マルシェとかにも出しているのですが、やはりそういうところで苦労はあるけれど、それを美味しいって言って食べてくれたとか、ここの白菜はうまいんだよね、中がおいしい白菜でうまかったというのを聞くだけで、ある程度報われたりするっていう話も私に話してくれるのです。なので、皆さんも大変ご苦労があるのはわかります。ただ、そういうことばかりを言ってしまうと、やはり子供たちもちょっと引いてしまう分もあり、あると思うので、それを繕えというわけではないのですが、是非ポジティブないい面とかも前面に出していただいて、千代田の白菜はこんなに美味しい、お米はこんなに美味しい、そしてお米以外の麦であるとかそういう違うものであってもいろんなところで活躍しているという、そういう発信もぜひしていただきたいなと思います。

4. 開 会

森議長：最後、私から一言なのですが、中国は食料安全補償で 1 年分ためようって言っているのです。それで、日本は 1 か月半なのです、今ね。それで、有事の時どうするのだという話になって、それで今日の話は、国がやるべきことがすごく多いと思うのです。日本は本当に輸入に頼っている、農業対策、農業の補助金も日本は少ないと言われています。将来的にやっぱり食料安全保障の問題もありますので、それも含めてですね。ちょうど地元で農林水産副大臣もいらっしゃいますので、要望を出していきたいと思えますし、千代田町にできることは限られているかもしれないのですが、こうやっているという事例を作っていくって広げたりとか、そういうこともできればと思いますので、やはり農業はとても大事ですし、日本の伝統とか、将来に向けて残しておくものはやっぱり農業だと思っています。今日はちょっと短い時間でしたが、本当に貴重なお話を伺うことができました。本当にありがとうございました。

蛭間農業委員長：次はいつやるのですか。1 回だけというのは非常に寂しい話で、次回は、またそれは議会の方に決めていただくのも大事だし、逆に定例会の中で、いただいたので 2 回目はうちのほうからプッシュしましょうよと、それでいずれ町長と行政に意見書を提出すると、いわゆる要望書、そういうふうになっ

ていしながら、それが1回、2回、3回、今日やったばかりですけど、そのくらいの気概をもって、常に軌道修正、相当この戦後、激変の農政だったものですから、我々がそれに付随していく、もちろん先ほど女性議員からお話があったように、私も職場体験、中1を迎えますけども、やっぱり夢のあるビジョンを伝えながら、君たちの11期先輩もうちで農業をやるのだよってという熱い思いを伝えながら、いずれ高校生、大学生になったときは、11期先輩の若者と話し合ってくれと、私はいわゆるサポーターでいるよという形で行けば、1人でも本町に農業者、来てねという旨が含まれば幸いかと、まあそんな感じで次回、期待しております。

酒巻副議長：本日は活発な意見、色んな意見が出たと思います。議会としても今日話したことをしっかりと皆で協議をしながら、先ほどお話がありましたが、今回限りというのではなく、しっかりとまた今後、農業委員会と協議を進めていながら、より良い千代田町の農業になっていくというのがいいのかなと考えておりますので、今後ともよろしくお願いしますということで、言葉整いませんが挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

下山議会事務局長：それでは、時間がまいりましたので、以上を持ちまして農業委員会との意見交換会を終了させていただきます。本日実施いたしました内容につきましては、議会広報、あるいはホームページの方で掲載させていただく場合があるかと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。また、今日いただいたご意見の中で、町内で課題となっている場所、会長からお話がありましたら、そういった課題のあるところに関して、議会のほうもその現場を見させていただいて、また今後の取り組みにつなげていきたいというふうに考えております。ですので、2月の下旬に、一応、農業を所管しております総務産業常任委員会の方で現地の方を視察させていただければということで、管内視察を実施したいというふうに思っておりますので、その際はご協力のほうよろしくお願いいたします。大変お疲れ様でした。